

# 大東文化歴史資料館だより

第25号 2018. 11. 30

## 大東アーカイブス第24回企画展

### 写真に見る大東生

#### — 沿革史のなかに描かれた学生像 —

展示期間：平成30年10月25日(木)～平成31年4月5日(金)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)

第24回企画展「写真に見る大東生 — 沿革史のなかに描かれた学生像 —」を開催いたします。2018年9月20日、大東文化大学は創立95周年を迎えました。百年の節目がもうすぐそこに見えてきています。現在、大東アーカイブスでは百年史編纂委員会を中心とし、鋭意、百年史編纂事業を進めています。そこで、これまでの本学の年史編纂事業において、どのような「学生像」が描かれてきたのか、過去の編纂過程で取り上げられた写真を中心に振り返ってみることにしました。

本学では、これまでいくつかの沿革史を刊行してきました。初めての本格的な通史となった『50年史』、写真を中心に歩みを振り返った簡易的年史である『60年史』、各部局の歩みを中心に編まれた『70年史』、写真広報的な編纂スタイルの『80年史』、学生をはじめ学内外の多くの方に読まれるようコンパクトに歩みをまとめたブックレット『90年史』等が刊行されています。これらの年史の中には使われている数の差こそありますが、グラビアを中心にいくつもの写真が使用されています。そして、それぞれの時代において特に選ばれて掲載された写真にはそれぞれに特徴があり、各時代の学生像を映し出すものとなっています。年史編纂の記録とともに、沿革史の中の、学生や大学の歩みをご覧ください。

#### < 展示資料解説 >

##### ◆ 『大東文化大学五十年史』

1973(昭和48)年9月20日発行の同書は、本学史上初の、本格的な沿革史となった。1120頁を超える大著であり、同窓生、学生たちからの聞き取りもなされている。特に、戦時下における学徒動員の記録や、戦後の青砥仮校舎での学校生活・寮生活は、戦禍のため公的資料や記録の多くが焼失しており、編纂に際し多くの学生たちの記憶によって辿ることができたのは幸いであった。沿革史編纂上で貴重な証言、資料が同窓生たちから寄せられ、学生生活が明らかになっていった経緯が、当時の資料から見て取ることができる。現存する編纂ファイルのなかには、掲載から最終的に漏れた写真などもそのまま残されている。

##### ◆ 『創立60周年記念 軌跡』

創立60周年には簡易的な記念誌である『軌跡』が刊行された。簡易版ではあるが、コンパクトに「60年間のあゆみ」と「現況」とがまとめられており、年史編纂委員会の創意工夫が感じられる作りである。後半部分が写真集となっている。同書中では特に、戦時下から敗戦直後にかけての厳しい状況のなかであっても若者らしい笑顔を見せる写真が採用されていることが印象的で、『五十

年史』とはまた異なる趣の写真が選ばれていることがわかる。学生たちは軍事演習先で仲間たちと戯れながら笑顔で集合写真に写り、敗戦後初の運動会ではイモ食い競争を楽しんだ。また、新制大学の「新入生歓迎会」写真には2名の女子学生の姿が見られた。

#### ◆『大東文化大学七十年史』

同書は創立70周年である1993（平成5）年9月20日に刊行された。各部署のあゆみが、それぞれにまとめられている点が特徴である。総執筆人数は68名であった。

なかほどにカラーページが用いられており、本学の伝統や学術研究の紹介のほか、多国籍の留学生を受け入れている学生たちの国際性の高さや、スポーツにおける国際的な活躍等が写真によって見ることができる。同時期は「国際」がキーワードであった。「国際性豊かな学園への発展」（1980年「学園運営の新基本方針」）のもと、教育的展開として本学に国際関係学部が設置されたのが1986（昭和61）年4月のこと。以降は北京外国語学院との交流協定の締結を皮切りとして世界の国々と海外交流を推進、学生たちはより一層外国事情に目を向けるようになり、キャンパス内では多様な民族衣装の学生たちが見られた。

#### ◆『心は放て天地間、まなこはさらせ世の移り

##### 大東文化大学創立80周年誌』

2003（平成15）年9月20日に刊行された本書は、21世紀を迎えて新しい時代を感じさせる構成のグラビアを中心とした記念誌である。「新しい

時代」における「新しい大学像」を求め、新たなロゴやシンボルマークが考案され、イメージキャラクター「パラブン」も発表された。同時代を「激動する情報化社会」と捉え、グローバルに活躍する力強い独創性、豊かな人間性を備えた人材育成を目指すことが強調されている。同書の写真からは、学生たちはラグビーや駅伝を中心にスポーツ界で活躍を重ねており、国際性豊かなキャンパスでは学生による企画によって「英語スピーチコンテスト」が開催されるなど、学園で充実した学生生活を送っていることが伝わってくる。一方で、80年という長い歩みを、OBOGの活躍も含めて紹介している。

#### ◆『大東文化大学創立90周年記念ブックレット

##### 大東文化大学の歩んできた道』

2013（平成25）年9月20日に刊行された同書は、100ページほどの小通史である。創立90周年は、大東アーカイブスが設置されてからはじめて迎えた周年記念事業であり、学生をはじめ関係各氏に広く手に取ってもらいやすいよう、コンパクトな小冊子の体裁を目指したものである。同書には、これまでの沿革史で使用された写真の再掲もあり、OBOGには懐かしく思ってもらえる箇所もあったかもしれない。21世紀に入り、書道やスポーツ分野での本学学生の活躍にますます期待は高まる一方で、国際問題や環境問題等幅広い興味関心を抱いて入学してくる学生も多い。

編纂過程で検討された多くの学生たちの写真には、時代とともに変容する学生たちの姿がそのまま残されている。

（大東文化歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）

### ギャラリートーク

本年11月3日（土）、第96回大東祭の開催期間中に特別企画として展示室（板橋校舎2号館1階）を開室（10～15時）し、展示解説説明会を行いました。昨年に引き続いての試みですが、本年度の見学者数は昨年以上の盛況で、本学同窓生などを中心に多くの方に展示室を見学していただきました。企画展示の趣旨と合わせ、大正期の九段校舎の開校から、池袋校舎、青砥校舎の変遷、戦後から現在までの板橋校舎及び東松山校舎の発展を説明するなかで、見学者からも貴重な思い出話をうかがうことができました。



## \* 大東アーカイブスの動き \*

本年7月17日（火）、静岡県熱海市在住の東亜政経科1期（本科15期）生で百歳を迎える野田泉さんから、ご自身の貴重な体験談をご自宅にてうかがいました。

野田さんの大東文化学院在学中には教育学者の吉田熊次（1874～1964年）や経済地理学者の国松久弥（1903～1986年）といった先生がいて、在学生らと丁々発止するような「本当の教育というか学問」を教わったそうです。野田さんは大東文化学院を卒業後、満州国の官吏養成機関である大同学院を経て、1944（昭和19）年に教育召集で入隊し、翌45年7月経理部教育隊（牡丹江市内）に転属、敗戦当時は横道河子でソ連戦車部隊の侵入に備えていました。抑留されてから、幸運にも傷病兵として1947（昭和22）年6月帰国できたとのことでした。帰国してから長い間、東亜政経科1期の有志らで定期的な同窓会（一政会）を催していたお話もうかがい、本学同窓生の絆があらためて強いものであると感じました。吉田篤志（歴史資料館運営員、中文科准教授）の父親である吉田源七さんも、東亜政経1期生で野田さんらと長く親交があったことも話題となりました。



なお、野田さんが所蔵されていた関係文献をアーカイブスにご寄贈いただきましたこと、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

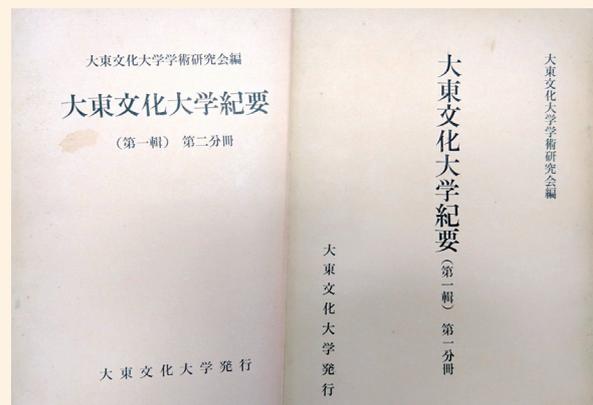
（大東文化歴史資料館運営委員 谷本宗生）

## \* 資料紹介 \*

### 『大東文化大学紀要』 第一号 （昭和38年3月刊行）

野田泉氏（本科第15期生・第三部東亜政経科第一期生 昭和16年卒業）より受贈した資料から、昭和38年3月に刊行された大東文化大学学術研究会編『大東文化大学紀要』創刊号を紹介する。

二分冊となっており、人文科学と社会科学とに分冊されているのは現行大学紀要とほぼ同じ体裁である。（現行はこれに「自然科学編」が加わる）。昭和36年8月に池袋校舎から現在の板橋校舎へと移転し、新たな体制と運営方針を打ち立てて「新しい大学」へ歩みを進めた時期に発行された。「巻頭の辞」は南條徳男学長によるもので、曰く、「本大学は、創立以来四十年、建学の趣旨に則って、東洋の学術文化を中心に、政治経済学等広汎にわたって、その真髄を究明すると共に、俊鋭学者の養成に努め、大いに声価を發揚して来たのであるが、第二次大戦により校舎並びに附属施設が尽く烏有に帰し、再建に極めて困難なるものがあつた。幸いに昨年来関係各位の絶大なる御協力によって、大学の振興計画が着々実現し、風光明媚な理想的教育環境である現地に、近代設備を誇る新校舎を建設すると共に、従来の文政学部強化内容に画期的刷新を加え、新しい組織と機構の下に文学部経済学部とし、本学の使命の遂行に邁進することになった。この秋に当って本紀要が発刊されることは洵に意義深いものがあり、わが国の学界に寄与貢献することが多大であることを確信するものである。昭和三十七年十二月」と記される。



（大東文化歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）

## < 資料寄贈ご協力のお願い >

大東アーカイブスでは、引き続き本学関係資料のご寄贈をお願いしています。学園史に関わる資料がございましたら大東文化大学総務課（大東文化歴史資料館担当）までご連絡いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 百年史編纂事業の進捗状況について

百年史編纂委員会委員長  
経済学部現代経済学科教授 中村宗悦

本学は今年9月に創立95周年を迎え、いよいよ100周年まで5年を切ってきました。「百年史編纂委員会」では引き続き資料収集に取り組みつつ、そのデジタル化などもおこなっています。とくに今年は入試広報課を中心に未整理のまま保管されていた写真関係でネガや紙焼き状態にあるもののデータ化を進めています。その一部は現在歴史資料館の展示で公開しています。また前号、前々号の「資料館だより」でもお知らせしました通り、陸上競技部がはじめて箱根駅伝で優勝した当時の貴重なフィルムや当時の運動部の活動を収めたフィルムなどの映像資料はすでにデジタル化し、大学のウェブサイト中の百年史特設ページ（「継往開来」）中に公開されています。またこれまで大学が刊行してきた年史関連の刊行物もすでにPDF化して上記特設サイトの刊行物コーナーに公開しています。これまでご覧になったことのない皆様にも是非、過去の『五十年史』や『七十年史』をご覧くださいませ。

前号では聴き取り調査の重要性を指摘しましたが、今年の7月には現在、静岡県にお住まいで、11月に100歳になられたOBの方に、主として戦時中の「満

州国」における大同学院（大東文化学院出身者が多く、「満州国」の官吏養成機関の役割を担った）にいらっしゃった頃のお話を伺うことができました。インタビュー内容の詳細につきましては、いずれ『研究紀要』などでご紹介する予定です。

また全学で取り組みがおこなわれているブランディング事業の中にも自校史の研究・教育が組み込まれており、歴史資料館もそれに協力して事業を進めて行く予定になっています。とくに草創期の大東文化学院に関わった多くの教員、研究者などについては、その研究業績を整理してデジタル・アーカイブ化し、公開を進めていきます。

百年史編纂に向けてやらねばならないことが山積している一方で、十分に進捗しているかと言えば、非常に心許ないばかりで、気ばかりが焦っています。どうぞ皆様からの資料・情報のご提供など、ご協力を賜れば幸甚です。

\*なお、資料情報のご提供に関しましては、大東文化大学総務課（大東文化歴史資料館 担当）までお知らせくだされば幸いです。

## ◆第二回大東文化大学史研究会

2018（平成30）年10月19日（金）、大東文化会館にて第二回大東文化大学史研究会を開催いたしました。研究発表は、中村宗悦（歴史資料館館長・現代経済学科教授）「大東文化協会設立に関する英国外交文書」、谷本宗生（歴史資料館専任研究員・東洋研究所特任准教授）「資料紹介『大東文化』（1972～1975年）の囲み記事『母校の半世紀』」の順で行われました。4月に開催した第一回に引き続き、大東史に関わる研究調査の最新線が報告され、有意義な議論が交わされました。不定期開催ではありますが、引き続き来年度以降も研究会の開催によって調査状況の進捗をご報告していく予定です。



## 【大東アーカイブス活動記録】（2018年4月～2018年9月）

- |      |                               |      |                                    |
|------|-------------------------------|------|------------------------------------|
| 4.16 | WG会議                          | 6.12 | 第23回企画展「学内移管資料展『合同教授会議事録』と学内刊行物」公開 |
| 4.23 | 第一回大東文化大学史研究会（於：大東文化会館）       | 7.17 | 野田泉氏（同窓生）聞き取り調査                    |
| 4.26 | 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会（於：國學院大学）   | 7.24 | WG会議                               |
| 4.27 | 福岡女学院視察見学対応                   | 7.25 | 中林史朗氏（中文科教授）より資料受贈                 |
| 5.24 | WG会議（含；デジタル化作業）               | 7.30 | WG会議（含；写真類デジタル化作業）                 |
| 5.29 | WG会議                          |      | 総務課預かり資料群移管                        |
|      | 百年史編纂委員会会議                    | 8.2  | 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会（於：東京芸術大学）   |
|      | 歴史資料館運営委員会会議                  | 9.18 | WG会議                               |
| 5.31 | 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会            | 9.27 | 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会（於：立教大学）     |
|      | 総会・周年記念シンポジウム（於：國學院大学）        |      |                                    |
| 5.31 | ニューズレター「大東文化歴史資料館だより」vol.24発行 |      |                                    |
| 6.11 | 企画展入れ替え                       |      |                                    |

大東文化歴史資料館だより

第25号

DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.25

発行：2018年11月30日

編集発行：大東文化歴史資料館

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL 03 (5399) 7646 / FAX 03 (5399) 7647

URL : <http://www.daito.ac.jp/information/about/archives/index.html>